

# ポジティブ行動支援

- Positive Behavior Support -

## 実践事例集 VI

PBSをとくしまの  
あたりまえに・・・



美馬市脇町小学校「ホット❤️脇小の木」

令和8年3月 徳島県教育委員会

---

# 1 スクールワイドPBSモデル事業 実践園・学校の取組

2 ページ

---

# 2 PBSコンサルタントとは！？

6 ページ

---

# 3 PCによる スクールワイドPBSスタートアップガイド

7 ページ

---

# 4 とくしまPBSアワードレポート

12 ページ

---

ポジティブ行動支援実践事例集VI

→ **目次**

# スクールワイドP B Sモデル事業 実践園・学校の取組

## 2年目のスクールワイドP B S



令和6年4月から2年間、学校全体で取り組むポジティブ行動支援（スクールワイドP B S）モデル事業がスタートし、徳島市、小松島市、吉野川市、美馬市の4市内にある1園9校がスクールワイドP B Sを実践してきました。

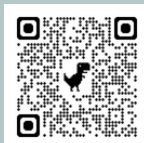
（ポジティブ行動支援実践事例集V参照）

実践を始めるにあたり、モデル事業実践園・学校内のP B S推進リーダーの悩みのひとつに「学校現場の多忙化」がありました。スクールワイドP B Sを学校全体で進めていくための研修時間の確保、新たに実践を始めることに対する負担感など、教員がスクールワイドP B Sの取組をネガティブに捉えることなく、持続可能な形で取り組めるかがポイントとなりました。

P B Sは、新たな教育プログラムという考え方ではなく、ポジティブな行動を支援するための枠組みであり、汎用性が高い教育手法とされていることから、「すでに多くの園や学校には、P B S的な取組があふれている」といえます。また、子供たちの可能性を引き出すために、手立てを考えたり適切に称賛したりするなど、「P B Sは、学校現場で先生方があたりまえのように実践してきたこと」と捉えることもできます。

そこでモデル事業実践園・学校では、既存の取組とP B Sを結びつけるなどして実践を工夫してきました。令和7年度は、前年の取組をブラッシュアップして取り組んだり、1年目を振り返り、全員が無理なく実践できるように取組を見直したりするなど、実践園や学校の実態に応じて進めてきました。

→NEXT PAGE 2年目の取組紹介



モデル事業実践園・学校の1年目の取組については、実践事例集Vで紹介しています。ぜひご覧ください！



## 南部中学校（徳島市）



1年目は、ポジティブ行動マトリクスの作成や組織づくりなど、スクールワイドPBSの基盤整備を丁寧に進めました。2年目はその成果を生かし、南部中学校の校訓を意識した実践へと発展させ、生徒会や専門委員会を中心に取組を拡大しました。あいさつ強化週間などのキャンペーンによって、生徒の主体的な行動が増えたり、研修を通してPBSの理解を深めることで教職員の称賛的な関わりが広がったり、学校全体でポジティブな行動を育てる取組が進んでいます。

## 小松島中学校（小松島市）

企画案NO. ( )		受付日 /					
決裁	校長	教頭	教頭	教務	1年主任	2年主任	3年主任
*考えられる課題やリスク、質問等は付箋を貼ってください（記載名を記入の上）							
<b>企画書</b>							
提出日 令和7年5月15日							
企画名	給食の音楽リクエストワーク						
所属	生徒会役員本部	提出者					
実施しようと思った理由	色々な音楽を聞いたらみんなが楽しくなるから。						
どうなったら成功といえるか	リクエストされた曲をかけた時						
	6月・10月・2月に放送室で生徒会役員がリクエスト曲を集めて選別し、放送する。						

1年目は、スクールワイドPBSを始めるにあたって取組の土台づくりを行い、2年目から、本格的に生徒会と専門委員会が主体となって、全校企画を立案・実行しました。また、教職員は、生徒の願いを優先した助言に徹しました。そして、定期的な委員会活動の実施や「企画書」の活用により、全ての委員会がそれぞれの企画を実現させました。成果報告会や掲示物等での称賛・フィードバックを通して、生徒の主体的な活動を引き出すことができました。

## 方上小学校（徳島市）



2年目は「持続可能なPBS」をテーマに、教職員と児童全員を巻き込んだスクールワイドPBSの実践を進めました。方上小学校の月目標を、ポジティブ行動マトリクスに基づいた具体的な内容に見直し、実践は各委員会が担当しました。代表委員会では振り返りや次の取組の準備を児童主体で行いました。学校として新たに取組を増やすのではなく、既存の取組にPBSの考え方を組み合わせることで持続可能なスクールワイドPBSの仕組みづくりにつなげることができました。

## 芝田小学校（小松島市）



1年目のスクールワイドPBSの取組後、教職員の異動による組織の見直しや、取組に対する負担感の軽減といった課題を踏まえ、持続可能な推進体制へ転換しました。目標を「自ら進んであいさつする」の一つに絞り、全教職員で協力しながら縦割り班活動を実践しました。理想のあいさつや基準を協議する中で主体性が育ち、望ましい行動が増えました。取組後も、子供たちが自ら別の課題に気づき啓発活動を実行するなど確かな変容がみられました。

モデル事業実践園・学校  
2年目のスクールワイドPBS↑

## 川島中学校（吉野川市）



今年度は推進チームを校務分掌に位置づけ、各学年主任を推進チームに加えたことで、推進リーダー主導から全教職員による組織的なスクールワイドPBSへと移行できました。また、全学年共通の目標を見直し、各学年団で子供たちの理想の姿について話し合い、目標設定やフィードバック方法を検討しました。1年生は2分前着席ができた割合を旅行時間に換算して、徳島から東京を目指すという楽しい実践に取り組みました。キャンペーン後も、この取組は継続しています。

## 脇町幼稚園（美馬市）



2年目の取組は、昨年度作成した「あいつこちゃん」などのキャラクターを継続起用。取組の流れは1年目から継続し、今年度は園児一人一人が自分の達成度をより視覚的に感じられるよう、シールカードを作成して取り組みました。園長先生に報告して認めてもらえる喜びと同時に、花を受け取り、掲示している「ここをもやせツリー」に貼り、みんなで満開にして全員で取り組んでいることを実感できるようにしました。みんなで「お話聞き名人」頑張っています！

## 学島小学校（吉野川市）



2年目は「あいさつ」の質を高め量を増やす実践に挑戦しました。先生たちの「学島劇場（寸劇）」で、良い例と悪い例を楽しく紹介。同時に、「いいね」「残念」の判定うちわを用いた評価方法も披露し、子供たちが練習する場も設定しました。自己評価、他者評価の視点が入ったシートに丸をつけることが励みとなり、進んであいさつする子供が増えました。目標達成後は全員でロング昼休みを満喫しました。取組後も教室では明るい挨拶が響き、とてもよい雰囲気が続いています。

## 脇町中学校（美馬市）



放送委員会の生徒が中心となり、黙想の活動でPBSの実践を進めました。今年度も生徒会が中心となってキャンペーンなどの企画立案を行うなど、生徒主体の活動となりました。キャンペーン内容は、廊下の生徒会コーナーに掲示してお知らせしています。教職員もPBSの研修を深めてきたことで、教職員間で生徒の良い行動を報告し合ったり、生徒もお互いの良い行動に気づいて伝えあったりする機会も多くなり、生徒指導上のトラブル減少にもつながっています。

モデル事業実践園・学校  
2年目のスクールワイドPBS

## 川島小学校（吉野川市） 学級経営コンサルテーション



プロジェクトチームの対先生によるコンサルテーションを受けることによって、望ましい子供たちの姿を目指しながら、よりよい学級経営につなげていきます。授業中の発表が少ないのは「間違えるのが不安」なのか「言い方が分からない」のか「自信がもてない」のかを、コンサルテーションを通して分析し、子供たちがどのような行動ができるようになるとよいのかを考えながら、手立てを工夫して改善につなげました。

## 脇町小学校（美馬市） 授業改善コンサルテーション



脇町小学校2年目におけるコンサルテーションのテーマは「PBSで『分かった』『できた』が実感できる授業づくり」です。プロジェクトチームの田中先生から学んだことをしっかりと全職員が共有し、学年の実態に応じて実践が進んでいくように対象学級を1学級から2学級を増やして、実施しました。また、教員も2グループに分かれてコンサルテーションに参加し、学びを深めました。授業改善の研修を実施し、確認問題の設定と「わかった・できた」を増やす授業づくりを進めることができました。

### 授業中の反応機会（アウトプット）

#### －よりよい授業改善・学級経営を目指して－

次の反応機会について、授業のなかでどのくらい実践しているか、確認してみましょう！

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> ノートやワークシートに短い内容を<br>書く機会 | <input type="checkbox"/> 自分の意見をジェスチャー<br>などで表明する機会                             |
| <input type="checkbox"/> 挙手して発表する機会               | <input type="checkbox"/> 同様の考え方が必要な問題で<br>練習する機会                               |
| <input type="checkbox"/> 全体で声を出す機会                | <input type="checkbox"/> 全体の場で意見が言いにくい<br>子供たちが意見表明できる機会<br>(ICT、ホワイトボードの活用など) |
| <input type="checkbox"/> 個人での学習活動機会               |  |
| <input type="checkbox"/> ペアでの学習機会                 |  |
| <input type="checkbox"/> グループでの学習機会               |  |

授業1コマあたりの子供たちの反応機会を多く設定することで、称賛回数も増加します！

モデル事業実践園・学校  
授業改善・学級経営 × P B S

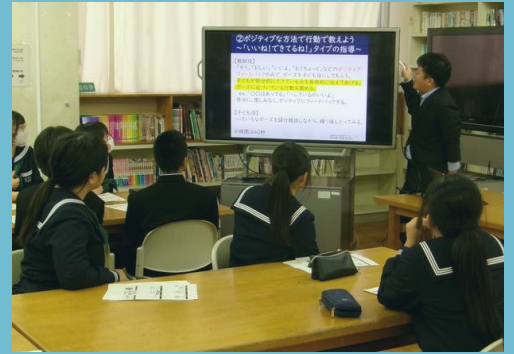


# PBSコンサルタントとは！？

## Pコンによる伴走支援

PBSコンサルタントとは、特別支援学校に在籍するPBS専門の巡回相談員であり、モデル園・学校からは「Pコン」と呼ばれています。

令和6・7年度は4名のPコン（下記）が配置されており、モデル事業実践校をはじめ、モデル事業を実施している4市内の園・学校の取組をサポートしてくれました。



## Pコンの業務内容

- ☑ スクールワイドPBS実施に関する指導・助言
- ☑ スクールワイドPBSに関する研修の支援
- ☑ PBS推進リーダーの育成を含めた推進チームへの支援
- ☑ 地域内園・小中学校に対するPBSの理解啓発

など



PBSコンサルタントは、養成研修を年間3回受講するとともに、毎月1回オンラインミーティングを開き、プロジェクトチームの指導を受けたり情報交換を行ったりして、PBSに関する専門性を高めています。

## 令和6・7年度のPBSコンサルタント

(所属・役職は令和6・7年度のもので)



**久米 紫穂**

国府支援学校 教諭  
担当モデル市：徳島市



**中川 隆士**

ひのみね支援学校 教諭  
担当モデル市：小松島市



**日野 浩志**

鴨島支援学校 教諭  
担当モデル市：吉野川市



**樋川 裕大**

池田支援学校美馬分校 教諭  
担当モデル市：美馬市

# PコンによるスクールワイドPBS スタートアップガイド



1 校内の組織づくり & PBS の考え方を再確認



2 ポジティブ行動マトリクス (3つの大切) を作成



3 行動支援計画シートの作成

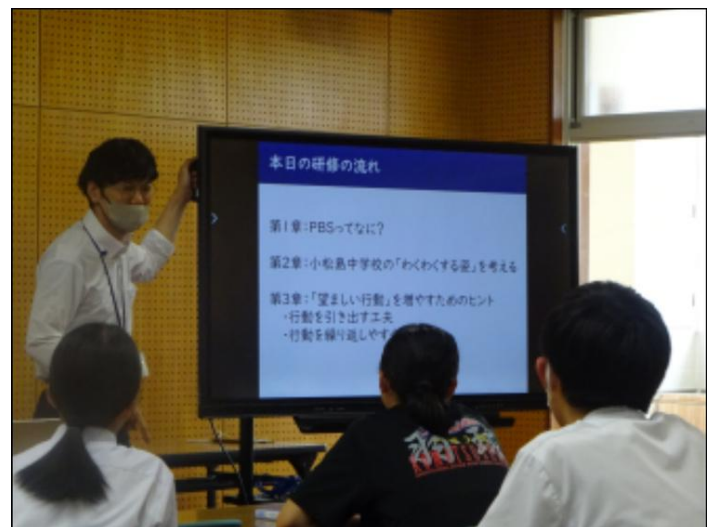


4 行動支援計画シートをもとにした実践

スクールワイドPBSの始め方やポイントについて、Pコンが解説します！



こちらのパンフレットも参考になります！



# PコンによるスクールワイドP B S スタートアップガイド

## ① 校内の組織づくり & P B S の考え方を再確認

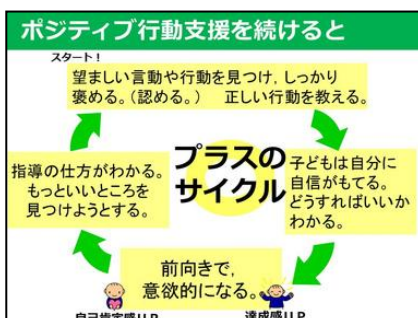
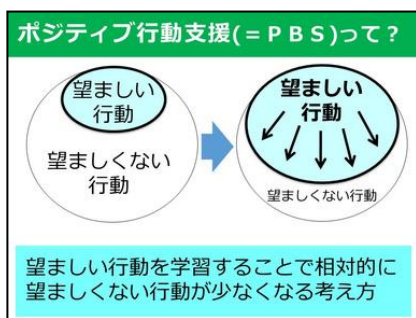
スクールワイドでP B Sを進めていくために、まずは園・学校内にP B S推進担当を含む「P B S推進チーム」をつくりましょう。推進チームができたら、改めて園・学校全体でP B Sの考え方について確認しましょう。研修の際には、総合教育センターホームページ「ポジティブ行動支援研修資料・教材例」のページがおすすめです。まずはP B S推進チームが中心となり、園・学校全体で取組について方向性を共有しておくことが大切です。

### P B S 推進チームをつくる際のポイント！

- ・ **担当は複数で組織**（複数で担当すれば、様々なアイデア・工夫が出やすく、取組が進みます）
- ・ **管理職の参加やサポート**（予算配分や時間割の調整などの決定権が必要）  
（管理職が担当者を積極的にサポートすることが大切）
- ・ **各分掌、担当からの選出**（異なる視点をもつ教員の配置）

### P B S とは何か！？もう一度みんな研修をとおして確認しよう！

園・校内研修の際に、わざわざ研修用資料を作成する必要はありません。



徳島県立総合教育センターHPには、研修に使える資料や動画が盛りだくさん！

おすすめです！

## とくしま版実行度チェックリスト

徳島県教育委員会が、プロジェクトチームの助言のもと作成したもので、スクールワイドP B Sがどこまで実行できているかを確認するものです。P B Sを校内で推進していく上で、次に何をすればよいのか計画立案する際の目安になります。

項目は全部で10項目。各項目を3段階でチェックします。目標はあくまで各校のP B Sの取組の充実と、それを通じて児童生徒・教職員の思いや願いの実現に繋がることです。また、年度末に再度チェックして比較することで、「次年度は何を重点的に取り組んでいくか」が明確になり便利です。得点が向上した取組について、お互いに頑張りを認め合える機会にもなりますね！



番号	達成内容	確認の基準	達成
1	P B S担当が複数配置されており、管理職とP B S担当を含むSWP B Sの研修分掌もしくは校内組織が構成されている(規程の部会・委員会がこの役割を担ってよい)	① P B S担当者と、SWP B Sを運営する校内組織のどちらが存在しない ② 1名の担当者と、SWP B Sを運営する校内組織のどちらが存在する ③ 複数の担当者と、SWP B Sを運営する校内組織の両方が存在する	
2	上記のSWP B S校内組織は定期的(月に1回程度)に実行状況や推進計画等について打ち合わせもしている(職員会議、校務分掌の会議の一部としてなどでも可、打ち合わせ内容は問わない)	① 年間において、一度も打ち合わせしていない ② 年間において、定期的(月に1回程度)に打ち合わせしている ③ 年度当初のチェックは昨年年度について、年度末のチェックでは、今年度について実施	
3	教員(または児童生徒)の意向形成のもとに、何が望ましい行動なのかを示すポジティブ行動マテリアルを作成され、校内各所に掲示されている	① ポジティブ行動マテリアルが作成されていない ② ポジティブ行動マテリアルが作成されているが掲示されていない ③ ポジティブ行動マテリアルが作成されており、校内に掲示されている	
4	マテリアル上の望ましい行動が、全児童生徒に具体的な説明とお手本(児童会・生徒会による劇やロールプレイ、モデリングビデオの作成、視覚的支援など)を用いて教えられている	① マテリアル上の望ましい行動が、教えられていない ② マテリアル上の望ましい行動について、専任教員の職責に任せられた状態で教えられている ③ マテリアル上の望ましい行動について、学校全体で指導計画や指導方法の共有がされており、具体的な説明とお手本を用いて教えられている	
5	学校・園として、児童生徒の望ましい行動に対してポジティブなフィードバックを行うための方法が計画かつ、教員間で共有されており、教員の9割以上が実際にポジティブなフィードバックを行っている	① 学校・園として、望ましい行動に対してポジティブなフィードバックを行うための方法が計画・共有されていない ② 学校・園として、望ましい行動に対してポジティブなフィードバックを行うための方法が計画・共有がされており、一部の教員が行っている	
6	【2点の例】あいづつでできた児童生徒に対してチケットを渡すことも実施すること、全教員が取り組んでいる	① 学校・園として、望ましい行動に対してポジティブなフィードバックを行うための方法が計画・共有がされており、教員の9割以上が行っている	
7	多学級においても、望ましい行動は何かを教えること、望ましい行動を引き出すための工夫をすること、望ましい行動を承認・称賞すること、学校・園全体と同一方向性でP B Sの実践が行われている	① 多学級においては、学校・園全体と同一方向性でP B Sの実践が行われていない ② 一部の学級において、学校・園全体と同一方向性でP B Sの実践が行われている ③ 全ての学級において、学校・園全体と同一方向性でP B Sの実践が行われている	
8	全ての教員が参加するP B Sの実践に取り組むための研修が計画もしくは実施されている(年に1回以上、15分程度の1-2研修も可)	① P B Sについての研修が計画・実施していない ② 全ての教員が参加するP B Sについての研修が計画・実施している	
9	第1回は、学校・園全体で行っているP B S実践内容とその成果について、全教員で振り返る機会を設けている	① 学校・園全体で行っているP B S実践内容とその成果について、振り返る機会を設けていない ② 第1回は、学校・園全体で行っているP B S実践内容とその成果について、全教員で振り返る機会を設けている ③ 学校・園全体で行っているP B S実践内容について、地域住民や保護者へ研修を実施している	
10	学校・園でのP B Sの取組について、過去1年以内に関係者や保護者へ研修を実施している(お便りや学校運営協議会での報告など)	① 学校・園でのP B Sの取組について、地域住民や保護者へ研修を実施していない ② 学校・園でのP B Sの取組について、地域住民や保護者へ研修を実施している	
10	P B Sの実践に関して、何らかの記録やデータを取り、それを基に期間で共有し実践を見直し、改善計画を立てたりしている	① 記録やデータを取っていない ② 記録やデータを取っているが、教員間で共有したり見直しや改善計画を立てていない ③ 記録やデータを取っており、それを基に実践を見直し、改善計画を立てている	

※現在の取組状況を正確に把握するため、Pコンや指導主事の説明のもと、実施することを推奨しています。

# PコンによるスクールワイドPBS スタートアップガイド

## ② ポジティブ行動マトリクス（3つの大切）を作成

ポジティブ行動マトリクス（3つの大切）とは・・・

園や学校における、子供たちに期待される行動や望ましい姿などについて、具体的に「見える化」したものです。例えば、単に「『すてき』になりましょう」と伝えるのではなく場面や場所によってどのように振る舞うのがよいのか行動レベルでまとめた表を指します。



川島小学校のマトリクスを見てみよう！

### 川島っ子チャレンジプロジェクト

R7年度

### 3つの大切

自分たちの園や学校の子供にはどのような力をつけてほしいかを話し合い、まとめていきます。大切なのは「みんなが意見を出し合う」ことです。また「子供が主語」になっているかも確認しましょう。3つの大切が何だったのかを教師も子供もすぐに思い出せるようなキーワードでまとめるのもいいですね！

#### ほんきでやり隊

#### すてきになり隊

#### むてきになり隊

低学年

○相手を見て終わりまで話を聞こう。  
○「はい」と返事をして自分の考えを相手に伝えよう。

○あったか言葉を毎日使おう。  
○自分や友だちのよいところを進んで毎日見つけよう。

○学習準備を整えて、チャイムの合図を自分の席で聞こう。  
○廊下の右側を静かに歩こう。

中学年

○相手の話を静かに聴こう。  
○「はい」と返事をして自分の考えを相手に伝えよう。

○あったか言葉を毎日使おう。  
○すすんであいさつをし合おう。

○学習準備を整えて、チャイムの合図を自分の席で聞こう。  
○室内では歩こう。

高学年

○話の聞き方「あ・い・う・え・お」を実践しよう。  
○自分の考えを伝えよう。（1日1回発表しよう。）

○あったか言葉を毎日使おう。  
○適切な言葉遣いで話そう。

○学習準備を整えて、チャイムの合図を自分の席で聞こう。  
○校内で他学年のお手本となる行動をしよう。

### 指導場面、場所など

まずは各教職員で「望ましい行動が増えたらよい場面（指導場面、例えば「授業中」や「給食時」など）を考えてみましょう。その後、全職員の意見を集計し、合意を得ながら決定していきます。当然、指導場面は園、学校によって違うので2項目や4項目にしたり、川島小学校のように、学年ごとで設定したりと、学校の状況によって工夫することができます。

（指導場面や場所は設定しないというマトリクスもOKです）

### 具体的な（指導可能な）目標

「3つの大切」を実現するために、できればいいと思われる行動を具体的に示します。研修の際には、学校の状態や子供たちの実態について話しやすいグループ（学年団など）をつくり、行動レベルで考えていきます。

#### ポイント！

- ・目標が多いと覚えきれないので、1マスにつき1～3つ程度で考える
- ・肯定的な言葉で（「～しない」ではなく「～する」）
- ・子供たちの実態に応じて、優先順位をつける

ポジティブ行動マトリクスを作成する際には、学校全体・学年・学級・部活動・人権教育・生徒指導など、様々な視点から話し合いましょう。「これでいくぞ！」という形になるまで議論することでチーム力が高まります。大切なのは合意形成をはかることです。また、マトリクス表は合意を得られればいつでも変更可能です。初めから完璧なものは作れませんので、実践を進めながら、よりよいものに仕上げていきましょう！子供の変化や教職員の入れ替わりに合わせて、年1回程度、マトリクスにある行動を見直すのがおすすめです！





# PコンによるスクールワイドPBS スタートアップガイド

## ④ 行動支援計画シートをもとにした実践

行動支援計画シートが出来たら、実践スタートです。令和6・7年度モデル事業実践校である、小松島市芝田小学校の実践を参考に、進め方のポイントをおさえていきましょう！

### 目標設定 → 芝田小学校「自ら進んであいさつする」

※縦割り班の中で、子供たちから出てきた「思い」をもとに決定

### 全校集会で目標を周知→お手本を見せる（モデリング）

めあての設定や望ましい行動について、教員が一方向的に教え、伝えるのではなく、全員が納得できるものを子供と一緒に考えました。



「笑顔で」「自分から」「届く声」の3つの基準を大切にしたい挨拶について、全校集会で共有しました。校長先生協力のもと、モデルを示すことで分かりやすく伝えることができました。

### 行動を認める工夫



一日のあいさつを自己評価し、3つの基準が達成できたら最大3枚シールを貼ることができます。子供たち自身で縦割り班ごとのボードを作成し、自分の班のボードにシールを貼ります。



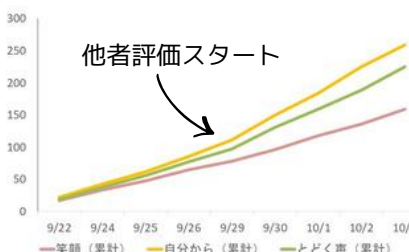
### さらに素敵なあいさつを目指して…



1週間の取組後にミニ全校集会を開き、班ごとに振り返りの機会をとり、2週目からは教職員や友達による、「他者評価」も取り入れました。

実践中、先生方は「届く声であいさつできたね」「笑顔が素敵！」と称賛しながらシールを渡すことを心掛けていたようです。子供たちにとってなによりうれしかったのは、シールよりも先生方の称賛だったのではないのでしょうか。またシールを掲示して子供たちの意欲を高めるとともに、データの活用にも生かし、分析につなげていました。シールを貼るボードも子供たちが作成したものです。「最小の労力で最大の効果」が得られるような取組を、先生方が楽しみながら考えていくことも大切なポイントの一つです！

### 記録の集計・振り返り



様々な場所や場面で気持ちの良い挨拶が聞こえてくるようになりました。また、シールの数を集計することで3つの基準についての成果や伸びしろが可視化されました。



# とくしまPBSアワード レポート

## PBSの素敵な実践を県内外に発信！！

令和5年度から始まった「とくしまPBSアワード」も3回目を迎えました。県内のPBSにおける取組の発信を目的として始まったこの企画、さあ今年はどのような素敵な実践が園、学校から届いたのでしょうか！？



### 取組を応募

PBSの取組を、既定の様式「エントリーシート」にまとめて応募します。学級・学年、担当校務の業務、学校全体（スクールワイド）など、取組の形は何でもOKです！取組の際に作成した資料や動画があれば、合わせてお送りください。

### 審査

ご応募いただいたエントリーシートは、プロジェクトチームの先生方によって審査されます。なお、ご応募いただいたすべての取組に対して、審査員からポジティブな講評もいただけます。

### 表彰・取組を発信！

見事「ゴールド賞」「審査員特別賞」を受賞した取組は、表彰式で賞状と盾を授与。徳島県立総合教育センターHPにてエントリーシートを公開します。  
※総合教育センター館内では、ゴールド賞、審査員特別賞、シルバー賞を掲示しています。





# エントリーシート

学校名(大俣小学校)  
対象(学校全体) 学年・学級・その他)

きく達人になろう!自分の目標にも取り組もう!  
～対話と自己変容を生むAIアドバイザー型PBS～

## 望ましい行動を【引き出す工夫】

## 【幼児児童生徒の望ましい行動】

## 【繰り返しやすくする工夫】

- 教師チームの児童への「想い」を結集させ、同一歩調で進めるために、「名人」「達人」「スーパー達人」の3段階の「ポジティブ行動マトリクス」を作成した。
- 3段階の「ポジティブ行動マトリクス」を掲示することで、行動目標の見える化とスモールステップの成功体験による支援も心がけた。
- 学校全体で、達成感を実感させるため、PBSコーナーを見学が必ず見る児童玄関に設置し、「きく木」を掲示した。「きく木」に達成のシールが貼られることで、好循環を促した。
- 一人一台タブレットを活用した「デジタルポートフォリオ」で、自己の目標に対する行動を毎日の学活で付箋に書き、振り返らすことで、自己の成長を自分で認められるようにした。

- 相手の顔を見て、最後までしっかり「きく」。
- 自分の課題を見付け行動目標に変え自ら取り組むことができる。

- デジタルポートフォリオに、付箋に書かれた望ましい行動が増えることで、自己の成長を視覚的に捉えることができる。
- 児童のデジタルポートフォリオの内容を教師が見ることで、望ましい行動にいたってなくても、意欲やその手前の段階も評価することができる。
- 学校全体での行動目標と個人の行動目標を組み合わせることにより、多層支援を行うことができる。
- 生成AIをアドバイザーとして活用することにより、教師と違った視点や繰り返し「次のステップに向けた温かい声かけ」や「よりよい行動のヒント」がもらえる。
- 「きく木」の葉の部分をだんだんと広げていくことで、「きく木」が成長していくようにし、学校全体に望ましい行動が広がっていることを視覚的に捉えさせる。

## 【引き出す工夫の写真】



## 【幼児児童生徒の変容】

### 【児童の行動変容の評価】

- 「子どもたちが、うなづきながらしっかり話を聞くようになった」と地域の方が、行動の変容を認めてくれた。
- 「ゲストティーチャーからも「大俣小の子どもたちは、しっかり話を聞いてくれるので話しても気持ちがいい」と言ってくれた。
- 「朝会でも話を聴く態度がよくなってきたのがわかり、教職員が認めることで、好循環が生まれている。

### 【児童のアンケート質問紙調査(5件法)からの評価】

- 相手の話をしっかりきくことができる。(A.97)
- 「デジタルポートフォリオ」を使うことで考える力が身に付いた。(A.92)
- 「デジタルポートフォリオ」で、新しい自分を発見できた。(A.93)
- 「デジタルポートフォリオ」で、自分の課題を見付け、その課題に取り組むことができた。(A.87)
- 「デジタルポートフォリオ」で、1日を振り返ることは、自分の成長に役立っている。(A.79)
- 「デジタルポートフォリオ」で、1日を振り返ることで、自分の行動をよい方向に変えることができた。(A.78)

### 【児童の自己記述から見る評価】

- みんなが、しっかり話を聞いてくれるようになったのでうれしい。
- 友だちに優しくできることが増えた。みんなに優しく話せるようになってきた。学級に「ありがとう」の言葉が増えた。

## 【繰り返しやすくする工夫の写真】



## 【成功のポイント】

(ポイント1) 児童のきく姿勢を向上させるためには、まず教師の聴く姿勢をよくすることが必要だと教職員からの声で、外部講師による「傾聴」の研修を行った。教師集団の向上しようとする姿勢が、児童の成長を促していると考えた。

(ポイント2) 生成AIからの回答は、PBSの考え方や応用行動分析学を踏まえて上での回答なので、管理職・担任がチェックする時に、当然教師も読むだけでも、PBSについての学びになり、教師力が向上している。支援の方法や言葉かけについて、教師も学ぶことで、声かけも変わってきた。



## 【取組の発信!】

- 学校のHPに掲載した。
- 校長室だよりに掲載し、保護者に発信した。
- リーフレット(参考資料)を作成し、PBSの効果様々な研究会等で発信している。



## PBSプロジェクトチームからの講評

生成AIを活用したPBSという全国的にも類を見ない革新的な実践です。児童一人一人への温かく的確なフィードバックと教師の負担軽減を両立させている点が秀逸です。統計的検定とテキストマイニングによる科学的な効果検証を通じて、「聴く力」のみならず課題解決力やウェルビーイングの向上も実証されており、データによる裏付けを伴った質の高い実践として高く評価できます。





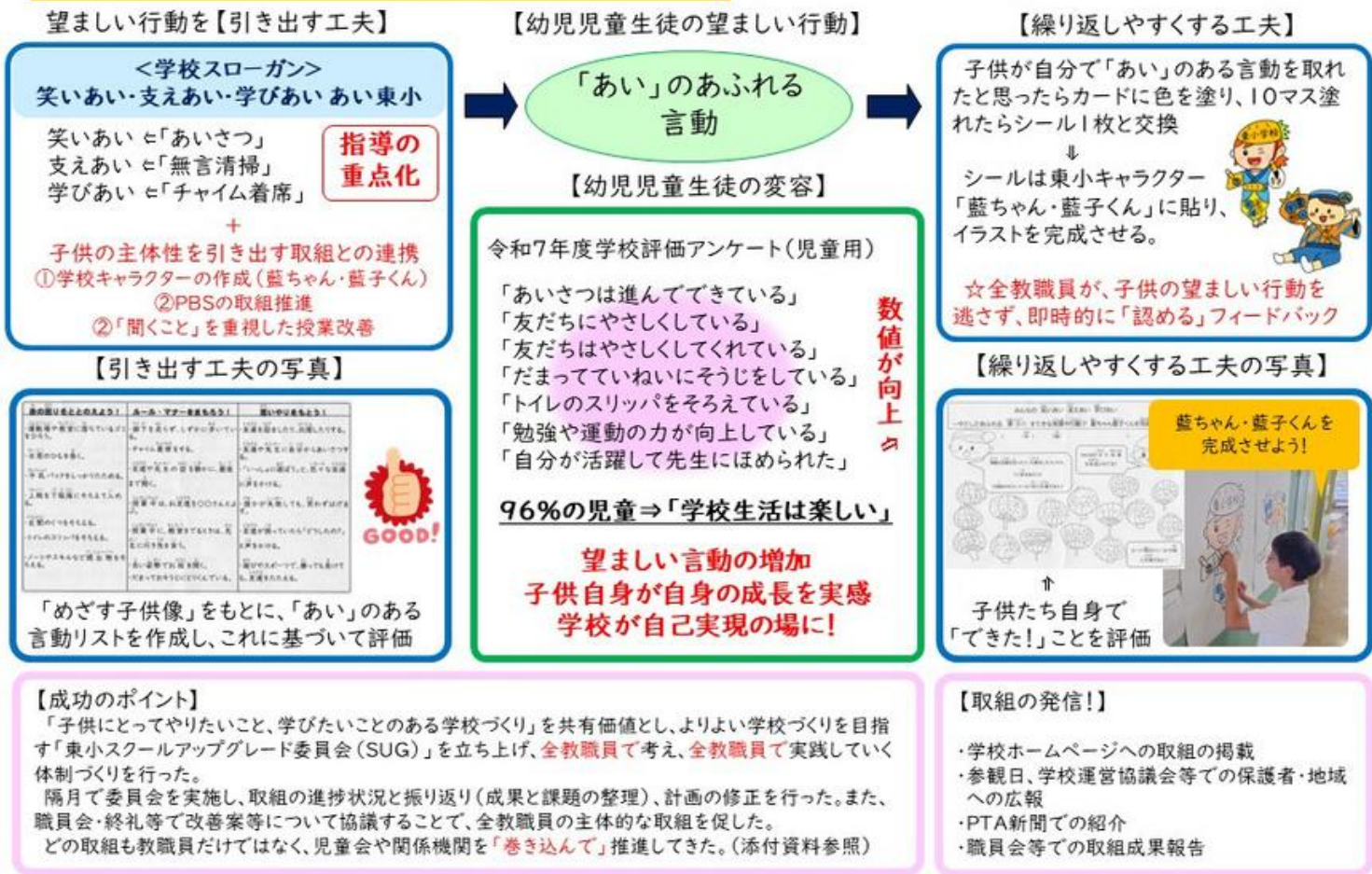
ゴールド賞

藍住町立 藍住東小学校

### エントリーシート

やさしさあふれる東小♡  
～すてきな言葉や行動で藍ちゃん藍子くんを完成させよう～

学校名 藍住町立藍住東小学校  
対象(学校全体・学年・学級・その他)



### PBSプロジェクトチームからの講評

子供たち自身が「できた!」ことを評価する(認める)ための工夫として、カードの色塗りやオリジナルキャラクターへのシール貼りが設定されています。この、自分で自分の行動を認めることを支える取組として、先生方が望ましい行動を具体化し(「あい」のある言動リスト)、全教職員で子供たちの望ましい行動に対してポジティブフィードバックを行っているところがすばらしいです。子供たちの主体性を育むために、大人ができることを全教職員がチームで考え、実践しているところに先生方の「あい」を感じました。



